

藤原 康則先生

演題「顎位の偏位による不定愁訴を考える」～患者の訴えとME機器のデータから読み取れること～

包括歯科臨床において重要な、炎症と力のコントロール。

患者の筋肉・骨格・咀嚼運動における個体差への対応、咬合面形態の考え方を臨床例を交えての解説。

TMD顎関節症における資料採得、症例別によるスプリント製作。

個体差の中で矯正治療が行われるべきであり、良い数値を目標にするべきでなく、解剖学的な顎関節の位置から、治療咬合位を導くことは、咀嚼運動や生体のバランスを考える上で、正常な咬合とは限らない。

生体は変化するものであり、常に患者の訴えに向き合い、原因と対策を考える。



甲斐 智之先生

演題「顎顔面包括治療の実践」～3次元6自由度診断による適正下顎位誘導～

咬合再構成症例に顎運動記録から得られたデータをもとに咬合治療の解決の鍵である適正下顎位への誘導を可能にするためのプロビジョナルレストレーション調整で適正下顎位(CR)へと誘導し最終補綴物へと移行。電子機器による顎運動解析に留まらず、通常のビデオ撮影での開閉運動の記録から得られること、ゴシックアーチによる下顎位の記録の問題点、ドーンソンの問題点、1発CR誘導補綴完成はどのような問題を抱えているのか等、臨床例を通して解説。

日々行っている臨床の中で、咬合において習得しておくべき基本事項を中心に、それに加え筋の触診や顎運動機器による解析意義からどの様にすれば解剖学的にも機能的にも満足のいく咬合を与えられるか解説して頂きました。



## 令和3年度 第4回 特別研修会

「Perio-Ortho-Implant アプローチで行う包括的歯周治療」  
「New Normal のインプラント治療を考える  
～Essential である歯科治療とは～」

日時：令和4年2月20日(日)

場所：ステーションコンファレンス東京

講師：工藤 求先生、梅津 清隆先生



瀧 俊之(神奈川県)

令和4年2月20日(日)ステーションカンファレンス東京にて、第4回特別研修会が行われました。まだまだコロナ感染症が広がり、終息していない為会場講演とWebでのハイブリッド開催となりました。冬季北京オリンピック開催中にもかかわらず、会場、

Webあわせて40名近くの聴講があり、これからの歯周病、矯正、インプラント治療の関りについて工藤求先生(東京開業)、梅津清隆先生(東京開業)に講演をして頂きました。

最初に笹谷専務理事より、このような状態が続くが、臨床研究会では例年に劣らず各種研修会を積極的に開催していきます、という心強いご挨拶から講演会がスタートとしました。

まず、工藤 求先生には、  
「Perio-Orth-Implantアプローチで行う包括的歯周治療」という演題で、歯周炎治療、矯正治療、インプラント治療を利用した包括的な歯周治療について症例を交えて、1,Perio-Orth-Implantアプローチで行う包括的歯周治療について 2,審美治療について 3,TAD(矯正用アンカースクリュー) 4,先にimplant埋入後に矯正を行う治療について 解説がなされました。中等度から重度の歯周病患者の68%は矯正治療を希望され、そのうち72%がアライナー矯正を希望されているとのことでは、世界の潮流となっている。TADを利用した歯周矯正により適切なガイドを与え、審美的に機能的に良好な状態にする。Perio-Orth-Implantで包括的歯周治療を行うことで歯牙、歯質の保存に繋がるとのことでした。



午後より、梅津 清隆先生  
「New Normal のインプラント治療を考える～Essentialである歯科治療とは～」という演題で米ロマリンダ大学在学中に学んだことも交え講演をいただきました。New Normalといわれる、新たな時代に向けての歯科インプラント治療における、治療方針、治療計画が与える、骨造成、即時埋入、審美補綴、アライナー矯正、Digital Dentistry などへの影響などを考慮し、治療コンセプトと臨床症例を関



連付けながら、解説頂きました。大学で研究された内容を中心に、1,両隣在歯の骨レベルとBiotypeとの関連 2,唇側骨のスタビリティー、骨の保存研究を主眼に関連付けてGBR,アライナー矯正、など多彩なオプションを取り入れて審美領域を治療する際に注意していることを解説頂きました。また、分類では欧米人に当てはめた基準でいうとアジア人は全てがThin-typeであると考え注意することが必要とのこと、治療ではリッジプリザーベーション→部分アライナー矯正→インプラント→マウスピース・メンテナンスを基本としている。特にリッジプリザーベーションでは、軟組織・感染骨の搔扱はもとより歯根部も出血を促す為に腫れることを前提で徹底的に搔扱して、補填材・吸収性膜を置くことが大切であるとのことでした。レベルの高い治療を簡単にされていることが印象的でした。

2名の講師の先生方、貴重なご講演ありがとうございました、インプラントを含む治療のこれからの方向が少し見えたように感じた研修会でした。

